

ディペンダブルで高性能な 先進ストレージシステム

— ストレージはどこまで賢くなることができるか —



研究概要



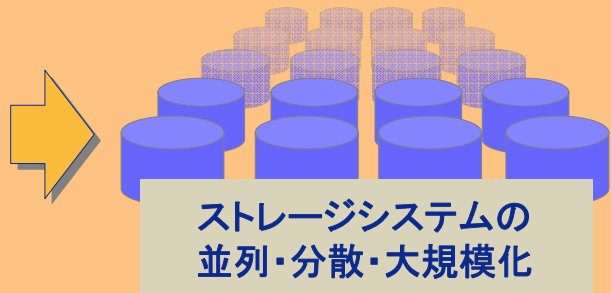
ストレージシステムをめぐる背景

高度情報化社会の求める 性能と信頼性

必要な情報を確実に格納し、高速に取り出すためのストレージシステムの性能と信頼性

記憶密度向上による 記憶容量増加の弊害

- ✓容量当たりのアクセス性能の劣化
- ✓装置故障によって喪失する情報量の増大



ストレージシステムの
並列・分散・大規模化

本研究の目標

高信頼で高性能なストレージシステム構築のための

基本的技術の確立

管理コストの削減を目指して

アクセス負荷と
容量バランスの
自動的な両立

通常処理と
データ管理処理の
プライオリティ管理

コンテンツの特徴を
活かした
ストレージ管理

チーム構成

先進ストレージ研究統括・推進グループ

東京工業大学
[横田、藤原、奥村、山岡、小林(亜)、小林(隆)]

高度メディア蓄積・管理手法研究グループ

奈良先端大 [植村、宮崎、天笠、波多野]

システムアーキテクチャ研究グループ

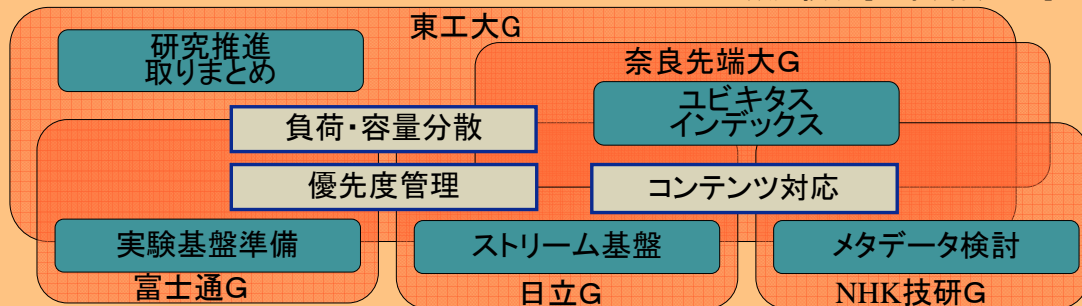
富士通 [太田、江尻、戸田]

メディアストリーミング基盤研究グループ

日立システム開発研究所 [菌田]

コンテンツ対応メタデータ研究グループ

NHK放送技研 [上原、林、田口]



海外関連研究者との交流

国際ワークショップの開催 (2004.12.6-7)

IBM (Almaden R.L.), HP, CMU